

留学報告書

法文学部人文社会学科 2 年生（当時） 藤岡祐羽

留学先：インド・ジャワーハルラールネルー大学、ネパール

留学期間：2019 年 8 月～2020 年 2 月

・始めに

私は 2019 年 8 月からジャワーハルラールネルー大学（JNU）での留学を 2020 年 1 月まで、また 2 月からは一ヶ月ネパールでのフィールドワークを行いました。JNU では主に国際法や日本文化についての授業を受けていました。また、ネパールでのフィールドワークでは、チベット難民居住区や農村部の小学校などを訪ね、インタビューやホームステイなどの貴重な体験をさせていただきました。

・志望理由

皆さんは「インド」「ネパール」と聞くと「暑い」「カレー」「タージマハル」「街が汚い」などといったイメージを持っていると思います（自分も最初はそうでした）。そのような国に何故留学しようと思ったのか。理由は大きく 2 つあります。

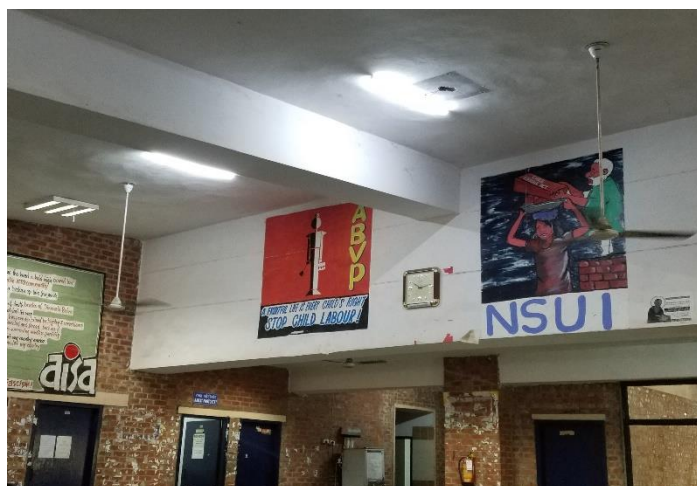
1 つ目は、自身の英語力を向上させるためです。留学先の JNU はインド屈指の名門校で、世界中から学生が集まります。授業は全て英語で行われるため、嫌でも英語を使わなければなりません。もちろん話し合いも英語、寮でもルームメイトと英語で会話、またインドでは英語が話せないと大学に入学することが出来ないため、インド人学生とも英語でコミュニケーションを取らざるを得ません。そのような環境で自分の英語力を伸ばせるチャンスは他にないと考えていました。

2 つ目は、インドやネパールの貧困問題や宗教対立問題等について自分の目でみてみたいと思ったからです。両国とも発展途上国です。特にネパールは後発発展途上国に分類され、バングラデシュと並びアジア最貧国の一つです。また経済格差も深刻で、ショッピングモールの隣にスラム街が広がり、そこで子供たちが遊んでいたります。更に宗教対立も深刻です。インドでは歴史的にヒンドゥーとイスラムの対立が続いており、現在でも死傷者が発生するほどの事件が発生しています。これらについて、本やネットでは分からない実情を知りたい、現地の様子を直接見聞きたいと考えていました。

・JNU での授業

JNU では、主に国際法と日本文学、そして日本古代史の授業を受けていました。すべて英語での開講でしたが、最初はインド英語に苦戦し、内容が全く分かりませんでした。授業

のスライドを写真にとって、後から復習するなどして内容理解に努めていました。また定期的に試験が行われていましたが、試験方法がすべて記述式でした。試験時間は2時間で、10ページくらいあるA4サイズの回答用紙にみんなひたすら記述していました。そのような形式の試験に慣れていない私は重要だと感じた点だけをまとめて書いて、提出していました。最初は苦痛に感じていましたが、1ヶ月経つと慣れ、大変ではありましたが苦痛とは感じなくなりました。



学内の様子

壁のあちこちに各学生団体の広告が描かれている（張り紙ではありません）

・ネパールでのフィールドワーク

ネパールでは、1ヶ月間滞在し、ネパールにおける教育問題や貧困問題、またチベット難民について調査をしました。

ネパールといえば、「エベレスト」に代表されるヒマラヤ山脈を連想すると思います。事実ネパールは観光業が盛んで、トレッキングだけでなくヒマラヤフライトやサファリパークの整備も進んでいます。しかし地理的制約から観光業以外の産業があまり発達せず、観光客に頼りながらの国家運営が続いています。農業については、雨季に発生する土砂崩れなどで畑が流されたり、場合によっては村が丸ごと流されることもあります。

私は2月上旬にネパール第二の都市であるボカラに行き、チベット難民キャンプにてインタビュー調査をしました。偶然出会ったチベット人カフェオーナーの方に色々な場所を案内してもらいました。また中旬にはネパールの農村部をめぐりました。ネパールで長年支援活動をしている日本人と出会い、貧困問題等について様々な助言をいただきました。下旬にはあるネパール人弁護士さんの紹介で、地方の小学校に1週間ホームステイさせていただきました。子供たちに英語や日本の事を紹介したり、農作業を手伝ったりしました。

ネパールでのフィールドワークで感じたことは、インタビューの難しさです。自分で質問を考え、英語で質問し、内容をまとめ、更に疑問を掘り下げて質問を考える。これが一番大変でした。自分が知りたいと思っていることでも、きちんと言語化して相手に伝えないと、何も出来ません。実際そういう経験が何度もありました。

ただ人々の人懐っこい笑顔に何度も救われました。行動計画を考える際に様々なアドバイスをいただいたり、貧しくとも最高のおもてなしをしていただいたときには、とても感動し、ネパールが好きになっていきました。全てを書き切ることは出来ませんが、学術的にも人間的にも成長できたと思っています。



左：ホームステイ先の小学校



右：橋の完成式

・留学で得たもの

1つ目は、英語に対する意識が変化したことです。どういうことかと言いますと、「英語が話せる＝流ちょうに英語を話す」は大きな間違いで、「英語が話せる＝流ちょうじゃなくてもコミュニケーションが取れる」ということに気が付いた、ということです。「そんなの当たり前だ」と思う人もいると思いますが、知識として知っていることと、実際に体験して理解することには大きな差があります。実際私も以前から後者について本やテレビなどで知り、知識としてその考え方を知っていました。しかし実際に JNU で、多くの外国人留学生と会話する中で、後者の考え方についてより深く自分の中で落とし込むことが出来たと感じています。

2つ目は、常に社会問題に関心を持ち、考え続ける意識を持つことです。私は留學生活の中で、様々なテーマについて考えさせられました。例えば貧困問題。前述した様に、インドやネパールにはスラム街がたくさんあります。JNU 周辺にもいくつか存在します。その一方ショッピングモールが増えつつあります。ショッピングモールでピザやハンバーガーを美味しそうに食べる子供たちと、隣のスラム街で不衛生な環境の中遊ぶ子供たち。皆さんはどう思いますか？子供たちは何を思うのか、子供たちやその家族が悪いのか、対策をしない政府が悪いのか、そもそもなぜ格差が生まれ、広がっていったのか。

このことだけに限りませんが、様々なテーマについて、自分なりに考えることが出来ました。貧困問題や平和に関する問題は、自分が考えても難しすぎてなかなか答えは出ないと思います。しかしだからと言って無関心でいいのだろうか。自分事として考え続けなければならないのではないか。そういう意識が芽生えてきたと思います。

3 つ目は、「人々との繋がり」や「縁」の大切さです。私はこの留学期間に、実に様々な人と会うことが出来ました。JNU 関係の友達、先生、青年海外協力隊の隊員、ガンディー主義活動家、チベット亡命政府の職員、ネパール在住チベット人カフェオーナー、ネパール在住で 30 年ほど支援活動が続けている日本人など、多くの人と出会い、話し、学びを得ることが出来ました。ここでは全部を書き切ることは出来ませんが、将来に大きな影響を受けたと思います。また彼ら彼女らと話し、交流したことで多様な価値観を知り、また逆に我々日本の文化や価値観を発信することが出来たと思います。

最後 4 つめは、「日本ブランド」を再認識でき、誇りに思えたことです。「日本ブランド」は私が勝手に作った言葉ですが、即ち日本の存在感や技術力、文化の偉大さなどを 1 まとめにした考え方、という意味です。例えばインドやネパールで走っている車の約半数は日本車です。また旅行で訪れたスリランカでは、日本の中古車がそのままスリランカで走っていました（ナビなどは全て日本語）。更にインドの主要都市の地下鉄の半数は日本の技術面・資金面での支援で建設されています。現在は中国が「一帯一路」政策によって周辺国での開発支援を増やしていますが、日本がまだまだ頼られる存在であると私は感じ、またその基礎を築いてきた先人を誇らしく思いました。

・楽しかったこと、大変だったこと

インドは日本や欧米と比べると格段に不便な国です。しかしまずは楽しかったことから紹介します。

1 つ目は現地の学生と遊ぶことでした。インドにはこれと言って娯楽はほとんどありません。その為遊ぶといってもご飯に行くか、焚火をするか、たまにお出かけするかでした。私が住んでいた寮には外国人しかおらず、毎週誰かが遊びに来ていました。また何度かインド人の友達の家に招かれたことがあり、食事をしたりお祭りに行ったりしました。火を囲んでたわいのない話や、時には将来の夢などについて話したりするのはとても楽しく、また刺激にもなりました。

2 つ目は旅行です。地図を見ればわかりますが、インドはとにかく広いです。ヨーロッパに匹敵するほど広いです。その為観光地もあちこちに数多くあります。JNU では 12 月末から冬休みがあり、私は 3 週間弱の一人旅行に行ってきました。行く先々で様々な文化、人、遺跡などに会い、充実した旅行でした。また 1 月下旬には念願のタージマハルに行き、当時の技術に思いを馳せながらその佇まいに圧倒されていました。

次は大変だったことを紹介します。1 つ目は体調不良です。当然ながら、インドやネパールは衛生環境が悪いです。衛生面は生水などを飲まなければ防げます。しかし一番大変だったのは食事です。食事が最初はなれず、下痢と体調不良に悩まされました。インドといえ

「カレー」です。カレーにはスパイスがたくさん入っています。またインド人は油もかなり使って料理をします。その為食べなれていない外国人は、必ずと言っていいほど下痢になります（ある先生は「下痢はインド入国ビザと同じ」とおっしゃっていました）。インド到着後の一週間くらいは物珍しさとその美味しさからレストランで毎回カレーを注文していました。しかしその後徐々にお腹を壊し、高熱が出るまでになりました。幸い近くに日本人常駐の病院があったため不安はかなり軽減されました。体調不良の時は、「何故インドに来てしまったのか」と一人で考えたり、地球の歩き方を見て「この症状はコレラか？いや肝炎か？」などと考えたりしていました。

二つ目は学生運動です。インドではJNUも含めて学生運動が盛んです。JNUでは、9月に学生組織の代表を選ぶ選挙があり、各候補者・支持母体が演説したり、チラシを配ったりしていました。授業中に割り込んでくることはしょっちゅうで、日本と比べてカルチャーショックを感じました。

ただ時に学生運動が激しすぎるな、と感じることもありました。JNUでは、11月から授業がストップしていました。原因は大学側の一方的かつ大幅な寮費値上げ（30倍）でした。学生団体が校舎を封鎖したり、授業や試験を受けないように呼び掛けていました。こうした呼びかけにインド人学生でも反発を覚えていて、私自身も戸惑いを感じました。



左：タージマハル



右：抗議集会の様子

・今後留学を考えている方へ

私は今回インドへの留学、そしてネパールでのフィールドワークを行いました。留学先にインドを選ぶ人はなかなかいないと思います。私自身も入学当初はまさかインドに行くとは思っていませんでした。今この留学報告書を読んでいる人すべてがインドに行くべきだとも思いません。しかしインドに限らず、留学は本当に視野を広げてくれます。インドは少し混沌としすぎましたが、他の場所でも日本とは違う雰囲気、環境、多国籍な学生などに囲まれると、きっと何か感じるものがあるはずです。

留学を考えている人は、海外に対する憧れと不安で葛藤していると思います。私も実際そうでしたが、行ってみて感じたのは、「意外と何とかなる」ということです。嘘か実か、行

って確かめてみてください。この報告書を読んで一人でも多くの人が混沌の国インドに興味を持ち、実際に訪れて頂けると幸いです。



豆カレーとナン
(インドのナンはパリふわです)